

開花期が終わり、果実が肥大してきています。
夏肥の施用、黒点病の防除、極早生及び早生温州の粗摘果を行いましょう！

1 令和3年1～5月の気象

暖地園芸研究所における本年の1～5月の気象を表1に示した。月平均気温は、1～3月までは平年より高く推移したが、4月は平年より0.9℃低く、前年と同程度であった。5月は、平年と同程度～やや高めに推移した。月平均気温は18.7℃で、平年より0.8℃高く、前年と同程度であった。

降水量は1月、2月は平年より少なく、3月、4月、5月は平年より多かった。1月～5月の合計降水量は713mmで平年より28mm多く、前年より90mm少なかった。

日照時間は、2月、5月を除き平年並～やや多く推移した。5月の第1半旬は平年より多く、第2、第6半旬は平年と同程度で、第3～第5半旬は平年より少なかった。

1月～5月の合計日照時間は816時間で平年及び前年より少なかった。

表1 令和3年1月～5月の気象（暖地園芸研究所）

月	半旬	平均気温 (℃)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1		6.6	6.1	8.0	7	92	204	175	175	206
2		9.0	6.6	9.0	51	87	51	102	154	102
3		11.1	9.6	11.1	244	174	244	170	167	170
4		13.1	14.0	13.3	214	169	199	199	177	191
	1	16.8	16.8	18.8	31	22	8	47	31	40
	2	18.3	17.2	17.1	15	24	11	32	30	30
	3	18.1	17.4	20.3	33	33	2	25	29	54
5	4	20.1	18.1	18.5	58	23	70	8	30	13
	5	19.7	18.8	17.5	8	26	15	21	31	14
	6	19.4	19.3	20.7	55	35	0	38	36	36
5月平均/合計		18.7	17.9	18.8	199	163	105	171	188	186
1～5月平均/合計		11.7	10.9	12.0	713	685	803	816	860	855

2 樹の生育

暖地園芸研究所における本年の温州ミカンの発芽期及び開花期を表2に示した。

発芽期は、「日南1号」が3月23日、「興津早生」が3月27日、普通温州が4月7日であり、平年より6～12日早かった。前年と比較すると、「日南1号」は1日早く、「興津早生」は前年並、普通温州は7日遅かった。

開花盛期は、「日南1号」が5月3日、「興津早生」が5月4日、普通温州は5月11日であり、平年より6～8日、前年より1～3日早かった。

本年の着花量は、暖地園研では早生温州では平年並、普通温州では着花量にばらつきがみられた。

寒害による著しい落葉や枯れこみはなかった。

表 2 発芽期及び開花期（暖地園芸研究所）

品種	発芽期（月・日）			開花期（月・日）								
	本年	平年	前年	始期			盛期			終期		
				本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
日南1号	3.23	4.2	3.24	4.27	5.5	5.6	5.3	5.9	5.6	5.8	5.15	5.11
興津早生	3.27	4.8	3.27	4.29	5.8	5.6	5.4	5.12	5.7	5.9	5.17	5.11
普通温州	4.7	4.13	3.31	5.7	5.12	5.7	5.11	5.17	5.12	5.20	5.22	5.19

注1) 平年：過去25年間の平均値（「日南1号」は平成27年～令和2年の平均値）

2) 普通温州：「大津4号」と「青島温州」の平均値

3 6～7月の栽培管理

(1) 夏肥の施用

早生温州（「興津早生」など）、普通温州（「大津4号」、「青島温州」など）ともに6月上旬に有機配合肥料を施用する。基準量は窒素、りん酸、加里を10a当たり成分量でそれぞれ、早生温州は5kg、7kg、7kg、普通温州は5kg、5kg、9kgとする。

(2) 摘果

摘果は粗摘果と仕上げ摘果の2回に分けて行う。1回目の粗摘果は、早生温州では6月下旬～7月上旬、普通温州では（樹勢が低下している場合のみ）7月上旬～中旬に葉果比10～15程度で行い、その後8月上旬～9月上旬（粗摘果の1ヶ月後）に葉果比25程度に仕上げ摘果を済ませる。着果の少ない裏年の樹では粗摘果は控え、仕上げ摘果から行う。仕上げ摘果の基準は、1果当り葉数で早生温州は25～30枚、普通温州は20～25枚である。

4 主な病気の防除

(1) かいよう病

かいよう病は、発芽前、落弁直後に防除を徹底する。多発園では、幼果実期の梅雨時期や台風前の追加散布を心がける。ただし、銅水和剤はマシン油乳剤、デランフロアブルとの近接散布による葉害が起りやすいので、銅水和剤散布後、2週間は散布時期をずらす。

(2) そうか病

そうか病は、通風不良で降雨後に乾きにくい場所や、窒素肥料が効きすぎている園で発生しやすい。通風を良くし、施肥は適切に行い樹勢を良好に管理するように努める。多発園では、発芽期（新芽が1cm程度になった時）と落弁期での薬剤防除を徹底する。

(3) 黒点病

黒点病は幼果期から成熟期にかけて感染、発病する。発生源は樹上・園内及び周辺の枯枝で降雨等による水滴によって伝染するため、梅雨入り前に樹上の枯れ枝の除去や薬剤防除を行う。ジマンダイセン水和剤／ペンコゼブ水和剤の付着量は降雨のたびに減少するため、前回散布後の積算降水量が200～250mmに達したとき、または約30日後の再散布が推奨されている。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合があります。

《 生育情報の問合せ先 》千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961 ※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>